

心のスイッチ



丹波市立柏原中学校

生活指導通信

No. 二十六

令和六年一月 九日

(文責 足立 進)

新年の挨拶(保護者の皆様へ)

あけましておめでとうございます。
今年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。
冬休み中も、生徒たちをしつかりと見守っていただき、ご支援いただいたお陰で、生活指導上の問題は一件も起こりませんでした。ありがとうございます。

大きな問題はなくても、一日中家にいて、スマホを触っているお子さんの姿を見て、ヤキモキされていた方もあつたのではないかと思います。
学期末にも、いろいろな機会に啓発してきたのですが、年末に電話で話している際に、ある保護者の方が、こんなことを言われました。

学期末懇談会で「今のままでは志望する高校に合格することは難しい」と、あれほど言われ、本人も「これから本気でやります」と言っていたのに、今もまだ毎日スマホを離すことができないんですよ。取り上げた方がいいのでしょうか。
大人でも、なかなかスマホを手放すことができない人もいますので、生徒自身でケジメをつけることは難しいのだと思います。

新年を迎えた今、「家庭内でのスマホのルール」を再度見直していただき、緩いルールにしていることで、お子さんや、お子さんの大事な友達が、この先窮地に立たされなくてよいように何卒よろしくお願ひします。

今年こそ新たな良い習慣を!

「今年こそ」と始めた日記も三日までという川柳があります。

「新年」というのは誰もが目標をたて、「今年こそは」と誓うものですが、日が経つにつれて、その誓いは破られ、頑張ろうと思った新鮮な気

持ちは薄れてしまつていくものようです。

しかし折角の新しい年の始まりです。「今年こそ良い年にしたい」と本気で思っているのなら、ぜひこの機会に、自分の成長につながる何かを始めてほしいと思います。
こんな言葉もあります。

世界でただ一つの喜びは

「始めること」だ。(セザール・パブス)

「新しいことを習慣づけよう!」とすることの先には「希望」や「夢」があると思つていきます。

終業式の中で校長先生が「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」と話されました。今こそ、自分と自分の未来を変えるために、何か新しい習慣を身につける努力を始めてほしいと思います。「どうせ続かないから」と、最初からあきらめるのではなく、これで自分を变える・成長させる・未来を切り拓くという強い意志を持つて、「なりたいたい自分になるための一歩」を踏み出してほしいと思います。

スマホの弊害

上記の「こあいさつ」の中にも書きましたが、スマホがもたらす弊害はたくさんあります。裏面に「スマホを使いすぎて失つてしまうもの」というチラシを載せておきます。

大人にとつても弊害でしようが、成長期である皆さんには、もっと大きな害となつて皆さんの前途を阻むものになりかねません。家庭でしっかりとルールを決めて、便利で弊害にならない使い方をお心掛けてください。



下校時の服装について

下校時の服装については、保護者アンケートの中で多くのご意見をいただきました。そのご意見はNo.十九号で公表し、「今後は生徒会執行部や生徒指導委員会において協議し、職員会議において決定したことをお伝えする。」としておりました。その手順を踏んで決定したことをお伝えします。

① 今後の下校時の服装について

「年間を通して部活動の服装のまま下校してもよいようにしてほしい」というご意見が大変多かつたことと、生徒会執行部の結論としても同じであつたことから、新たに次のような試行期間を設けることにしました。

令和六年一月十一日から三月三十一日の間、部活動の服装で下校することを許可する。

② 再度「試行期間」とした理由

「校則改正」ではなく、再度「試行期間」とした理由には次の三つがあります。

- ・「校則改正」はあくまでも生徒総会で行うべきである。
- ・再度「試行期間」とすることで、生徒たちが自覚したり、自らケジメをつけたりする様子を確認したい。
- ・家庭の中で話し合つて出していたご意見の結果を、なるべく早く反映させたい。

③ 試行期間中に確認すること

校則を改正した後に不都合なことが起こらないよう、試行期間中に次の三つの確認を行います。

- ・服装に関するルールをきちんと守ることができているか。
- ・登下校の際のルールを守つて安全な下校ができているか。
- ・制服を学校に忘れて帰るなど、改正した際に不都合となることはないか。

④ 例外として登下校の服装を認めること

本件とは、少し外れる内容ですが、アンケート

トでいただいたご意見を検討し、例外として認めることを確認した内容をお知らせします。

雨天時・降雪時・気温が大変低い時はスカートや防寒用の上着を履いて登下校することを認める。防寒用のスポンの上からスカートを履くことは認めない。

緊張に挑む二年生を見ました

年末に行われた新生徒会本部役員選挙には、二年生の立候補者八名と責任者八名が挑み、選挙活動や立ち会い演説会に臨みました。

選挙活動期間も立ち会い演説会も、随分緊張したと思います。しかし、緊張しながらも一生懸命頑張っている姿はカッコ良く、とても美しかったです。ナイスチャレンジでした。そんな緊張こそが人を成長させます。小さな緊張を日々繰り返すことができる人が、大きな緊張にも負けない人になれるのです。新しい年の初めに「新たな挑戦」をしようかどうか迷っている人に次の言葉を贈ります。

- ・一日に少なくとも一つは自分の力にあまる事を成し遂げようとしないう限り、どんな人間でも大した成功は期待できない。

(エルバート・ハバード)

チャレンジして失敗を恐れるよりも、何もしないことを恐れる。(本田宗一郎)

最大の名誉は決して倒れないことではない。倒れるたびに起き上がることである。(孔子)

成功するための最善の方法。それはもう一度試みることである。(トーマス・エジソン)

能登半島支援募金に協力を

正月早々、北陸地方が大変な地震災害を受けました。早速生徒会が募金活動を立ち上げてきています。今できる支援は募金活動しかありません。「金額が多い少ない」ではなく、できればみんなで協力していきましょう。